

対象校No. 769
注4

学校コード F123310106915
注3

設置年度 令和 5年度

計画の区分： 大学院の設置
注1

認可

注2

一宮研伸大学 看護学研究科 看護学専攻（M）

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 （改正前大学設置基準適用）

学校法人研伸学園
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	総務課
職名・氏名	総務係 村上 翔子
電話番号	0586-28-8110
（夜間）	0586-28-8110
e-mail	jimukyoku@ikc.ac.jp

- （注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例） 〇〇大学 △△学部 □□学科
（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例）
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、該当番号を記載してください。

目次

看護学研究科

＜看護学専攻（M）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	4
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	12
6. 附帯事項等に対する履行状況等	25
7. その他全般的事項	26

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人研伸学園

(2) 大 学 名

一宮研伸大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒491-0063

愛知県一宮市常願通五丁目4番1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	イトウ シンイチ 伊藤 伸一 平成15年12月		
学 長	オオクボ キヨコ 大久保 清子 令和3年4月		
学 部 長	サカキバラ ヒサタカ 榊原 久孝 令和3年4月	ノムラ チフミ 野村 千文 令和6年4月	榊原から学部長辞任願提出があったため、新規で野村を選任した 令和6年4月1日(6)
研究科長	アンドウ ショウコ 安藤 詳子 (令和5年4月)	アンドウ ショウコ 安藤 詳子 (令和5年4月)	榊原が学部長と兼任予定だったが、運営を充実させるため、安藤を専任の研究科長として配置 令和5年4月1日(5)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
- (例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)
令和6年度に報告する内容 → (6)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学研究科 看護学専攻 修士(看護学)	保健衛生学関係(看護学)	2年 年	6人	0人 2年次 3年次 0人 4年次 0人	12人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「ー」を選択。)

(5) ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []				
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []				
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []				
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []				
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []				
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		1.00		1.00					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「ー」を記入してください。
・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「ー」を記入してください。
・ 転入学生は記入しないでください。
・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「ー」を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「ー」を記入してください。
・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
・ 報告年度に「春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。

(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「ー」を選択。)

- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。

なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。

- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「ー」としてください。

・ 「(5) ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	
2年次			人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	
3年次					人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	
4年次							人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	
計	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「ー」を記入してください。
・ ()内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「ー」を記入してください。
・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「ー」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	6 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
令和6年度	12 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{12} = \boxed{0} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

【認可時又は届出時】

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼務	
				必修	選択	自由	教	准教	講師	助教	助手	手		
共通科目	地域創成ケアシステム論	1前	2	2			3	1	1				兼1	
	看護研究法Ⅰ	1前	2				2							
	看護研究法Ⅱ	1前	2				1	1	1				兼2	
	死生学	1後	2	2			1							
	看護理論	1後	2	2			2							
	看護倫理	1後	2	2			2	2						
	看護教育論	1前	2	2	1	1	1							
	看護管理論	1前	2	2	1	1							兼3	
	コンサルテーション論	1後	2	2	1									
	医療英語特論	1前	1			2								
	病態生理学特論	1前	2	2	2	1								
	臨床薬理学特論	1前	2	2									兼1	
	フィジカルアセスメント	1後	2	2	2		1							
	小計(13科目)				—	7	18	0	9	4	3	0	0	兼7
地域創成ケアシステム	看護マネジメント学特論Ⅰ	1前	2	2			1	1					兼2	
	看護マネジメント学特論Ⅱ	1後	2	2	1	1								
	看護マネジメント学演習	1後	2	2	1	1							兼3	
	看護科学特論Ⅰ	1前	2	2	2		1							
	看護科学特論Ⅱ	1後	2	2	2									
	看護科学演習	1後	2	2	2									
	小計(6科目)				—	0	12	0	3	1	1	0	0	兼5
	専門科目	次世代育成看護学特論Ⅰ	1前	2	2			1						兼1
		次世代育成看護学特論Ⅱ	1後	2	2									
		次世代育成看護学演習	1後	2	2	1	1							兼2
急性・療養生活支援看護学特論Ⅰ		1後	2	2	1	1								
急性・療養生活支援看護学特論Ⅱ		1後	2	2	1	1								
急性・療養生活支援看護学演習		1後	2	2	2									
メンタルヘルス支援看護学特論Ⅰ		1前	2	2	1		1						兼1	
メンタルヘルス支援看護学特論Ⅱ		1後	2	2	1									
メンタルヘルス支援看護学演習		1後	2	2	3	1								
がん療養生活支援看護学特論Ⅰ		1前	2	2	1	1							兼1	
がん療養生活支援看護学特論Ⅱ		1後	2	2	2									
がん療養生活支援看護学演習		1後	2	2	2	1								
がん療養生活支援看護学特論Ⅰ		1後	2	2	1								兼9	
がん療養生活支援看護学特論Ⅱ		1前	2	2	1	1								
がん療養生活支援看護学実践Ⅰ		1前	2	2	1								兼5	
がん療養生活支援看護学実践Ⅱ		1前	2	2	1									
がん療養生活支援看護学実践Ⅲ		1後	4	2	2								兼1	
がん療養生活支援看護学実習Ⅰ		1後	2	2	2									
がん療養生活支援看護学実習Ⅱ		2前	2	2	2								兼1	
がん療養生活支援看護学実習Ⅲ		2前	4	2	2									
がん療養生活支援看護学実習Ⅳ	2前	2	2	2								兼1		
小計(20科目)				—	0	44	0	4	3	2	0		0	兼20
科目研究	看護学特別研究	1後・2後	6				8	4						
	小計(1科目)	—	6	0	0	0	8	4	0	0	0	0	兼0	
合計(40科目)				—	13	74	0	9	4	5	0	0	兼31	
卒業要件及び履修方法														
修了要件は、大学院に2年以上在学し、31単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院の行う修了論文についての審査及び試験に合格することとする。														
履修方法														
地域創成ケアシステム分野・地域生活創成看護分野の場合														
・共通科目から必修7単位、他に10単位以上選択し履修する。														
・専門科目から8単位以上選択し履修する。														
・研究科目6単位を履修する。														
・専門科目は各自の選択した専攻領域の「特論ⅠⅡ」及び「演習」各2単位と他領域の特論・実践論より2単位以上履修する。														
合計31単位以上を修得すること														
がん看護専門看護師認定審査受験資格を取得する場合														
・共通科目から必修7単位、他に12単位以上選択し履修する。														
・専門科目から24単位以上選択し履修する。														
・研究科目6単位を履修する。														
・共通科目のうち看護理論、看護倫理、看護教育論、看護管理論、コンサルテーション論より6単位以上選択し履修する。														
・病態生理学特論、臨床薬理学特論、フィジカルアセスメントは履修とせず。														
・専門科目のうち、がん療養生活支援看護学特論ⅠⅡⅢ、実践論ⅠⅡⅢ、実習Ⅰ～Ⅳは履修とせず。														
合計49単位以上を修得すること														

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
共通科目	地域創成ケアシステム論	1前	2			3	1	1				兼1	
	看護研究法Ⅰ	1前	2			2							
	看護研究法Ⅱ	1前	2			1	1	1					
	死生学	1後	2			1	1					兼2	
	看護理論	1後	2			2							
	看護倫理	1後	2			2	2						
	看護教育論	1前	2			1	1	1					
	看護管理論	1前	2			1	1						
	コンサルテーション論	1後	2			1						兼3	
	医療英語特論	1前	1			2							
	病態生理学特論	1前	2			2	1						
	臨床薬理学特論	1前	2									兼1	
	フィジカルアセスメント	1後	2			2		1					
	小計(13 科目)	—	7	18	0	9	4	3	0	0		兼7	
専門科目	看護マネジメント学特論Ⅰ	1前	2			1	1					兼2	
	看護マネジメント学特論Ⅱ	1後	2			1	1						
	看護マネジメント学演習	1後	2			1	1					兼3	
	看護科学特論Ⅰ	1前	2			2		1					
	看護科学特論Ⅱ	1後	2			2							
	看護科学演習	1後	2			2							
		小計(6科目)	—	0	12	0	3	1	1	0	0		兼5
	次世代育成看護学特論Ⅰ	1前	2			1						兼1	
	次世代育成看護学特論Ⅱ	1後	2			1						兼2	
	次世代育成看護学演習	1後	2			1	1						
	急性・療養生活支援看護学特論Ⅰ	1前	2			1						兼2	
	急性・療養生活支援看護学特論Ⅱ	1後	2			1	1						
	急性・療養生活支援看護学演習	1後	2			2							
	メンタルヘルス支援看護学特論Ⅰ	1前	2			1		1				兼1	
	メンタルヘルス支援看護学特論Ⅱ	1後	2			1						兼1	
	メンタルヘルス支援看護学演習	1後	2			3		1					
	がん療養生活支援看護学特論Ⅰ	1前	2			1	1						
	がん療養生活支援看護学特論Ⅱ	1後	2			2							
	がん療養生活支援看護学演習	1後	2			2	1						
	がん療養生活支援看護学特論Ⅲ	1後	2			1						兼9	
	がん療養生活支援看護学実践Ⅰ	1前	2			1	1					兼5	
	がん療養生活支援看護学実践Ⅱ	1前	2			1							
	がん療養生活支援看護学実践Ⅲ	1後	4			2						兼1	
	がん療養生活支援看護学実習Ⅰ	1後	2			2						兼1	
	がん療養生活支援看護学実習Ⅱ	2前	2			2						兼1	
	がん療養生活支援看護学実習Ⅲ	2前	4			2						兼1	
	がん療養生活支援看護学実習Ⅳ	2前	2			2						兼1	
		小計(20科目)	—	0	44	0	4	3	2	0	0		兼20
目 科 目 研 究	看護学特別研究	18・28	6			8	4						
	小計(1科目)	—	6	0	0	8	4	0	0	0		兼0	
合計(40科目)		—	13	74	0	9	4	5	0	0		兼31	
卒業要件及び履修方法													
修了要件は、大学院に2年以上在学し、31単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院の行う修士論文についての審査及び試験に合格することとする。													
履修方法													
地域創成ケアシステム分野・地域生活創成看護分野の場合													
・共通科目から必修7単位、他に10単位以上選択し履修する。													
・専門科目から8単位以上選択し履修する。													
・研究科目6単位を履修する。													
・専門科目は各自の選択した専攻領域の「特論ⅠⅡ」及び「演習」各2単位と他領域の特論・実践論より2単位以上履修する。													
合計31単位以上を修得すること													
がん看護専門看護師認定審査受験資格を取得する場合													
・共通科目から必修7単位、他に12単位以上選択し履修する。													
・専門科目から24単位以上選択し履修する。													
・研究科目6単位を履修する。													
・共通科目のうち看護理論、看護倫理、看護教育論、看護管理論、コンサルテーション論より6単位以上選択し履修する。													
病態生理学特論、臨床薬理学特論、フィジカルアセスメントは履修とする。													
・専門科目のうち、がん療養生活支援看護学特論ⅠⅡⅢ、実践論ⅠⅡⅢ、実習Ⅰ～Ⅳは履修とする。													
合計49単位以上を修得すること													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨床実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
- (例：記載順) 【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】(旧)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

該当なし

【令和6年度】

該当なし

- (注) ・ 2 (1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の表開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
5 科目	35 科目	0 科目	40 科目	- 科目	- 科目	- 科目	- 科目	
[-]	[-]	[-]	[-]					

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{40} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	6,465.00㎡	- ㎡	- ㎡	6,465.00㎡				
	運動場用地	2,478.59㎡	- ㎡	- ㎡	2478.59㎡	運動場（長島グラウンド）			
	小 計	8,943.59㎡	- ㎡	- ㎡	8,943.59㎡	借用面積：1,487.59㎡ 借用期間：平成29年から20年			
	そ の 他	- ㎡	- ㎡	- ㎡	- ㎡	運動場（第一グラウンド）			
	合 計	8,943.59㎡	- ㎡	- ㎡	8,943.59㎡	自有：991㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		7,687.20㎡ (7,687.20㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	7,687.20㎡ (7,687.20㎡)	看護学部と共用			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
		8室	15室	5室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		大学院専任教員の人数に合わせたため（5）		
		看護学研究科看護学専攻			18 20 室				
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部での購入寄贈や汚破損等による除籍、休刊・価格高騰による契約終了のため(5)(6) 経常経費で購入物品の追加のため(6) 図書には電子ブックを含む。	
		18,768 [978] 18,302 [977] (18,748 [978])	32 [6] 33 [6] (32 [6]) 33 [6]	2 [2] (2 [2])	1284 1284 (1284) 1284	3,213 3,112 (3,099)	101 (101)		
		計	18,768 [978] 18,302 [977] (18,748 [978])	32 [6] 33 [6] (32 [6]) 33 [6]	2 [2] (2 [2])	1284 1284 (1284) 1284	3,213 3,112 (3,099)		101 (101)
	(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		
484.50㎡			95		30,290				
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		- ㎡		体 育 室 361.07 ㎡					
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費の予算配分 がなかったため（5）
		教員1人当り研究費等	200千円	200千円	図書購入費	400千円	120千円	80千円	
		共 同 研 究 費 等	0千円 2800千円	2,800千円	設備購入費	7,700千円	0千円	0千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,150千円	1,000千円	-	-	-	-		
	学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、補助金等による						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を**赤字で見え消し修正**するとともに、その理由及び報告年度「（6）」を「備考」に**赤字で記入**してください。
なお、昨年度の報告において**赤字で見え消し**した部分については、**見え消しのまま黒字にしてください。**
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称		一 宮 研 伸 大 学								収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考		
看護学部看護学科	年 4	人 80	年次 人 3年次 6	人 332	学士 (看護学)	倍 1.04	倍 1.04	年度 -	年度 平成29	愛知県一宮市常 願通五丁目4番1			
大学全体	4	80	3年次 6	332	学士 (看護学)	1.04	1.04	-	平成29	同上			

5 教員組織の状況

<看護学研究科 看護学専攻（M）>

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大久保 清子 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学） 修士（看護学） 看護管理論 看護マネジメント学特論Ⅰ 看護マネジメント学特論Ⅱ 看護マネジメント学演習 看護学特別研究
専	教授	安藤 祥子 ＜令和5年4月＞ 博士（医学） 急性・療養生活支援看護学特論Ⅱ がん療養生活支援看護学特論Ⅰ がん療養生活支援看護学特論Ⅱ がん療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学特論Ⅲ がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ がん療養生活支援看護学実践論Ⅱ がん療養生活支援看護学実践論Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅰ がん療養生活支援看護学実習Ⅱ がん療養生活支援看護学実習Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅳ 看護研究法Ⅰ 看護倫理 看護学特別研究
専	教授	石井 成郎 ＜令和5年4月＞ 博士（学術） 修士（教育学） 看護研究法Ⅱ 看護科学特論Ⅰ 看護科学特論Ⅱ 看護科学演習 看護学特別研究
専	教授	大谷 恵 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 地域創成ケアシステム論 メンタルヘルス支援看護学特論Ⅱ メンタルヘルス支援看護学演習 看護学特別研究
専	教授	榊原 久孝 ＜令和5年4月＞ 医学博士 地域創成ケアシステム論 看護研究法Ⅰ メンタルヘルス支援看護学演習 看護学特別研究
専	教授	櫻井 武 ＜令和5年4月＞ 博士（医学） 医療英語特論 病態生理学特論 フィジカルアセスメント

【令和5年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大久保 清子 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学） 修士（看護学） 看護管理論 看護マネジメント学特論Ⅰ 看護マネジメント学特論Ⅱ 看護マネジメント学演習 看護学特別研究
専	教授	安藤 祥子 ＜令和5年4月＞ 博士（医学） 急性・療養生活支援看護学特論Ⅱ がん療養生活支援看護学特論Ⅰ がん療養生活支援看護学特論Ⅱ がん療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学特論Ⅲ がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ がん療養生活支援看護学実践論Ⅱ がん療養生活支援看護学実践論Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅰ がん療養生活支援看護学実習Ⅱ がん療養生活支援看護学実習Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅳ 看護研究法Ⅰ 看護倫理 看護学特別研究
専	教授	石井 成郎 ＜令和5年4月＞ 博士（学術） 修士（教育学） 看護研究法Ⅱ 看護科学特論Ⅰ 看護科学特論Ⅱ 看護科学演習 看護学特別研究
専	教授	大谷 恵 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 地域創成ケアシステム論 メンタルヘルス支援看護学特論Ⅱ メンタルヘルス支援看護学演習 看護学特別研究
専	教授	榊原 久孝 ＜令和5年4月＞ 医学博士 地域創成ケアシステム論 看護研究法Ⅰ メンタルヘルス支援看護学演習 看護学特別研究
専	教授	櫻井 武 ＜令和5年4月＞ 博士（医学） 医療英語特論 病態生理学特論 フィジカルアセスメント

【令和6年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大久保 清子 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学） 修士（看護学） 看護管理論 看護マネジメント学特論Ⅰ 看護マネジメント学特論Ⅱ 看護マネジメント学演習 看護学特別研究
専	教授	安藤 祥子 ＜令和5年4月＞ 博士（医学） 急性・療養生活支援看護学特論Ⅱ がん療養生活支援看護学特論Ⅰ がん療養生活支援看護学特論Ⅱ がん療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学特論Ⅲ がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ がん療養生活支援看護学実践論Ⅱ がん療養生活支援看護学実践論Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅰ がん療養生活支援看護学実習Ⅱ がん療養生活支援看護学実習Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅳ 看護研究法Ⅰ 看護倫理 看護学特別研究
専	教授	石井 成郎 ＜令和5年4月＞ 博士（学術） 修士（教育学） 看護研究法Ⅱ 看護科学特論Ⅰ 看護科学特論Ⅱ 看護科学演習 看護学特別研究
専	教授	大谷 恵 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 地域創成ケアシステム論 メンタルヘルス支援看護学特論Ⅱ メンタルヘルス支援看護学演習 看護学特別研究
専	教授	榊原 久孝 ＜令和5年4月＞ 医学博士 地域創成ケアシステム論 看護研究法Ⅰ メンタルヘルス支援看護学演習 看護学特別研究
専	教授	櫻井 武 ＜令和5年4月＞ 博士（医学） 医療英語特論 病態生理学特論 フィジカルアセスメント

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	下平 唯子 ＜令和5年4月＞ 博士（医学） 修士（看護学） 看護理論 コンサルテーション論 がん療養生活支援看護学特論Ⅱ がん療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学実践論Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅰ がん療養生活支援看護学実習Ⅱ がん療養生活支援看護学実習Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅳ 看護学特別研究
専	教授	野村 千文 ＜令和5年4月＞ 博士（看護学） 修士（数理学） 地域創成ケアシステム論 看護理論 看護倫理 メンタルヘルス支援看護学特論Ⅰ メンタルヘルス支援看護学演習 看護学特別研究
専	教授	藤本 悦子 ＜令和5年4月＞ 医学博士 学士（看護学） フィジカルアセスメント 看護科学特論Ⅰ 看護科学特論Ⅱ 看護科学演習 医療英語特論 病態生理学特論 看護教育論 看護学特別研究
専	准教授	鈴江 智恵 ＜令和5年4月＞ 博士（福祉経営） 修士（医療・福祉マネジメント） 看護教育論 看護管理論 看護マネジメント学特論Ⅰ 看護マネジメント学特論Ⅱ 看護マネジメント学演習 看護学特別研究
専	准教授	小倉 久美子 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 看護倫理 病態生理学特論 急性・療養生活支援看護学特論Ⅰ 急性・療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ 看護学特別研究
専	准教授	小島 徳子 ＜令和5年4月＞ 博士（看護学） 看護倫理 次世代育成看護学特論Ⅰ 次世代育成看護学特論Ⅱ 次世代育成看護学演習 看護学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	下平 唯子 ＜令和5年4月＞ 博士（医学） 修士（看護学） 看護理論 コンサルテーション論 がん療養生活支援看護学特論Ⅱ がん療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学実践論Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅰ がん療養生活支援看護学実習Ⅱ がん療養生活支援看護学実習Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅳ 看護学特別研究
専	教授	野村 千文 ＜令和5年4月＞ 博士（看護学） 修士（数理学） 地域創成ケアシステム論 看護理論 看護倫理 メンタルヘルス支援看護学特論Ⅰ メンタルヘルス支援看護学演習 看護学特別研究
専	教授	藤本 悦子 ＜令和5年4月＞ 医学博士 学士（看護学） フィジカルアセスメント 看護科学特論Ⅰ 看護科学特論Ⅱ 看護科学演習 医療英語特論 病態生理学特論 看護教育論 看護学特別研究
専	准教授	鈴江 智恵 ＜令和5年4月＞ 博士（福祉経営） 修士（医療・福祉マネジメント） 看護教育論 看護管理論 看護マネジメント学特論Ⅰ 看護マネジメント学特論Ⅱ 看護マネジメント学演習 看護学特別研究
専	准教授	小倉 久美子 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 看護倫理 病態生理学特論 急性・療養生活支援看護学特論Ⅰ 急性・療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ 看護学特別研究
専	准教授	小島 徳子 ＜令和5年4月＞ 博士（看護学） 看護倫理 次世代育成看護学特論Ⅰ 次世代育成看護学特論Ⅱ 次世代育成看護学演習 看護学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	下平 唯子 ＜令和5年4月＞ 博士（医学） 修士（看護学） 看護理論 コンサルテーション論 がん療養生活支援看護学特論Ⅱ がん療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学実践論Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅰ がん療養生活支援看護学実習Ⅱ がん療養生活支援看護学実習Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅳ 看護学特別研究
専	教授	野村 千文 ＜令和5年4月＞ 博士（看護学） 修士（数理学） 地域創成ケアシステム論 看護理論 看護倫理 メンタルヘルス支援看護学特論Ⅰ メンタルヘルス支援看護学演習 看護学特別研究
専	教授	藤本 悦子 ＜令和5年4月＞ 医学博士 学士（看護学） フィジカルアセスメント 看護科学特論Ⅰ 看護科学特論Ⅱ 看護科学演習 医療英語特論 病態生理学特論 看護教育論 看護学特別研究
専	准教授	鈴江 智恵 ＜令和5年4月＞ 博士（福祉経営） 修士（医療・福祉マネジメント） 看護教育論 看護管理論 看護マネジメント学特論Ⅰ 看護マネジメント学特論Ⅱ 看護マネジメント学演習 看護学特別研究
専	准教授	小倉 久美子 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 看護倫理 病態生理学特論 急性・療養生活支援看護学特論Ⅰ 急性・療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ 看護学特別研究
専	准教授	小島 徳子 ＜令和5年4月＞ 博士（看護学） 看護倫理 次世代育成看護学特論Ⅰ 次世代育成看護学特論Ⅱ 次世代育成看護学演習 看護学特別研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	増永 悦子 ＜令和5年4月＞ 博士（教育） 修士（教育ファシリテーション学） 地域創成ケアシステム論 看護研究法Ⅱ 死生学 急性・療養生活支援看護学特論Ⅱ 急性・療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学特論Ⅰ がん療養生活支援看護学演習 看護学特別研究
専	講師	大瀬 恵子 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 次世代育成看護学演習
専	講師	佐久間 美里 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） メンタルヘルス支援看護学特論Ⅰ メンタルヘルス支援看護学演習
専	講師	
専	講師	田畑 真澄 ＜令和5年4月＞ 修士（社会福祉学） フィジカルアセスメント
専	講師	馬場 美穂 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 地域創成ケアシステム論
専	講師	肥田 武 ＜令和5年4月＞ 修士（教育学） 看護研究法Ⅱ 看護教育論 看護科学特論Ⅰ
兼任	講師	張本 浩平 ＜令和5年4月＞ 地域創成ケアシステム論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	増永 悦子 ＜令和5年4月＞ 博士（教育） 修士（教育ファシリテーション学） 地域創成ケアシステム論 看護研究法Ⅱ 死生学 急性・療養生活支援看護学特論Ⅱ 急性・療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学特論Ⅰ がん療養生活支援看護学演習 看護学特別研究
専	講師	大瀬 恵子 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 次世代育成看護学演習
専	講師	佐久間 美里 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） メンタルヘルス支援看護学特論Ⅰ メンタルヘルス支援看護学演習
専	講師	
専	講師	田畑 真澄 ＜令和5年4月＞ 修士（社会福祉学） フィジカルアセスメント
専	講師	馬場 美穂 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 地域創成ケアシステム論
専	講師	肥田 武 ＜令和5年4月＞ 修士（教育学） 看護研究法Ⅱ 看護教育論 看護科学特論Ⅰ
兼任	講師	張本 浩平 ＜令和5年4月＞ 地域創成ケアシステム論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	増永 悦子 ＜令和5年4月＞ 博士（教育） 修士（教育ファシリテーション学） 地域創成ケアシステム論 看護研究法Ⅱ 死生学 急性・療養生活支援看護学特論Ⅱ 急性・療養生活支援看護学演習 がん療養生活支援看護学特論Ⅰ がん療養生活支援看護学演習 看護学特別研究
専	講師	大瀬 恵子 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 次世代育成看護学演習
専	講師	佐久間 美里 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） メンタルヘルス支援看護学特論Ⅰ メンタルヘルス支援看護学演習
専	講師	佐々木 久美子 ＜令和6年4月＞ 博士（看護学） フィジカルアセスメント
専	講師	馬場 美穂 ＜令和5年4月＞ 修士（看護学） 地域創成ケアシステム論
専	講師	肥田 武 ＜令和5年4月＞ 修士（教育学） 看護研究法Ⅱ 看護教育論 看護科学特論Ⅰ
兼任	講師	張本 浩平 ＜令和5年4月＞ 地域創成ケアシステム論

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高橋 原 ＜令和5年4月＞
		死生学
兼任	講師	谷山 洋三 ＜令和5年4月＞
		死生学
兼任	講師	岩井 美世子 ＜令和5年4月＞
		コンサルテーション論 がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ がん療養生活支援看護学実践論Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅰ がん療養生活支援看護学実習Ⅱ がん療養生活支援看護学実習Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅳ
兼任	講師	兼田 美代 ＜令和5年4月＞
		コンサルテーション論
兼任	講師	熊地 美枝 ＜令和5年4月＞
		コンサルテーション論
兼任	講師	永澤 悦伸 ＜令和5年4月＞
		臨床薬理学特論
兼任	講師	井尾 公司 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学特論Ⅰ
兼任	講師	日比野 友也 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学特論Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高橋 原 ＜令和5年4月＞
		死生学
兼任	講師	谷山 洋三 ＜令和5年4月＞
		死生学
兼任 兼任	講師	岩井 美世子 ＜令和5年4月＞
		コンサルテーション論 がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ がん療養生活支援看護学実践論Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅰ がん療養生活支援看護学実習Ⅱ がん療養生活支援看護学実習Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅳ
兼任	講師	兼田 美代 ＜令和5年4月＞
		コンサルテーション論
兼任	講師	熊地 美枝 ＜令和5年4月＞
		コンサルテーション論
兼任	講師	永澤 悦伸 ＜令和5年4月＞
		臨床薬理学特論
兼任	講師	井尾 公司 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学特論Ⅰ
兼任	講師	日比野 友也 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学特論Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高橋 原 ＜令和5年4月＞
		死生学
兼任	講師	谷山 洋三 ＜令和5年4月＞
		死生学
兼任	講師	岩井 美世子 ＜令和5年4月＞
		コンサルテーション論 がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ がん療養生活支援看護学実践論Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅰ がん療養生活支援看護学実習Ⅱ がん療養生活支援看護学実習Ⅲ がん療養生活支援看護学実習Ⅳ
兼任	講師	兼田 美代 ＜令和5年4月＞
		コンサルテーション論
兼任	講師	熊地 美枝 ＜令和5年4月＞
		コンサルテーション論
兼任	講師	永澤 悦伸 ＜令和5年4月＞
		臨床薬理学特論
兼任	講師	井尾 公 治 司 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学特論Ⅰ
兼任	講師	日比野 友也 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学特論Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡山（長谷川）ミサ子 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学演習
兼任	講師	清水 輝子 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学演習
兼任	講師	住田 千鶴子 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学演習
兼任	講師	高橋 由紀 ＜令和5年4月＞
		次世代育成看護学特論Ⅰ 次世代育成看護学特論Ⅱ
兼任	講師	加藤 千明 ＜令和5年4月＞
		次世代育成看護学特論Ⅱ
兼任	講師	立松 美和 ＜令和5年4月＞
		急性・療養生活支援看護学特論Ⅰ
兼任	講師	横井 博子 ＜令和5年4月＞
		急性・療養生活支援看護学特論Ⅰ
兼任	講師	畠山 和人 ＜令和5年4月＞
		メンタルヘルス支援看護学特論Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡山（長谷川）ミサ子 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学演習
兼任	講師	清水 輝子 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学演習
兼任	講師	住田 千鶴子 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学演習
兼任	講師	高橋 由紀 ＜令和5年4月＞
		次世代育成看護学特論Ⅰ 次世代育成看護学特論Ⅱ
兼任	講師	加藤 千明 ＜令和5年4月＞
		次世代育成看護学特論Ⅱ
兼任	講師	立松 美和 ＜令和5年4月＞
		急性・療養生活支援看護学特論Ⅰ
兼任	講師	横井 博子 ＜令和5年4月＞
		急性・療養生活支援看護学特論Ⅰ
兼任	講師	畠山 和人 ＜令和5年4月＞
		メンタルヘルス支援看護学特論Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡山（長谷川）ミサ子 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学演習
兼任	講師	清水 輝子 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学演習
兼任	講師	住田 千鶴子 ＜令和5年4月＞
		看護マネジメント学演習
兼任	講師	高橋 由紀 ＜令和5年4月＞
		次世代育成看護学特論Ⅰ 次世代育成看護学特論Ⅱ
兼任	講師	加藤 千明 ＜令和5年4月＞
		次世代育成看護学特論Ⅱ
兼任	講師	立松 美和 ＜令和5年4月＞
		急性・療養生活支援看護学特論Ⅰ
兼任	講師	横井 博子 ＜令和5年4月＞
		急性・療養生活支援看護学特論Ⅰ
兼任	講師	畠山 和人 ＜令和5年4月＞
		メンタルヘルス支援看護学特論Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	前川 早苗 ＜令和5年4月＞
		メンタルヘルス支援看護学特論Ⅱ
兼任	講師	伊藤 雄二 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	加藤 貴之 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	加藤 俊男 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	嶋津 光真 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	野中 健一 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	松山 恭士 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	蓑島 謙一 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	前川 早苗 ＜令和5年4月＞
		メンタルヘルス支援看護学特論Ⅱ
兼任	講師	伊藤 雄二 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	加藤 貴之 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	加藤 俊男 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	嶋津 光真 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	野中 健一 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	松山 恭士 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	蓑島 謙一 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	前川 早苗 ＜令和5年4月＞
		メンタルヘルス支援看護学特論Ⅱ
兼任	講師	伊藤 雄二 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	加藤 貴之 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	加藤 俊男 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	嶋津 光真 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	野中 健一 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	松山 恭士 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	蓑島 謙一 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	武鹿 良規 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	山田 昌秀 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	穂山 真理 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ
兼任	講師	遠藤 貴子 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ
兼任	講師	鴨川 七重 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ
兼任	講師	矢野 和美 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	武鹿 良規 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	山田 昌秀 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	穂山 真理 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ
兼任	講師	遠藤 貴子 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ
兼任	講師	鴨川 七重 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ
兼任	講師	矢野 和美 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	武鹿 良規 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	山田 昌秀 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学特論Ⅲ
兼任	講師	穂山 真理 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ
兼任	講師	遠藤 貴子 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ
兼任	講師	鴨川 七重 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ
兼任	講師	矢野 和美 ＜令和5年4月＞
		がん療養生活支援看護学実践論Ⅰ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュ)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

岩井美世子非常勤講師 令和5年4月に本学看護学部専任講師で就任したため、兼任から兼任に変更。

【令和6年度】

田畑真澄講師が令和6年3月31日付けで退職したため、佐々木久美子講師就任。令和5年12月教員審査済み。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**原則としてＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ませ**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等
(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	6	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
9	4	5	0	18	0	9	4	5	0	18	0
(9)	(4)	(5)	(0)	(18)	(0)						
研究指導 教員数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導 教員数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
10	8	2	6			10	8	2	6		
(10)	(8)	(2)	(6)			(10)	(8)	(2)	(6)		
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
9	4	5	0	18	0	9	4	5	0	18	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導 教員数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導 教員数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
10	8	2	6			10	8	2	6		
(10)	(8)	(2)	(6)			(10)	(8)	(2)	(6)		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	6 名	7 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{18}{18} = \boxed{100} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{6}{18} = \boxed{33.33} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1		該当なし											
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	講師	田畑 真澄	R6.3	選択	フィジカルアセスメント	①	R6.3.31付け退職のため辞退						
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	1	科目	計	1	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
1	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	1 科目	計	1 科目	計	0 科目	計	0 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{18} = 5.55 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況		辞任等の理由					
		該当なし											
合計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

講義内容である「フィジカルアセスメント」において、学生の履修等への影響は、退職した講師と同じ基礎看護領域である講師を後任として補充するため、おおよその影響はないと考えている。
 なお、学生への周知方法については、科目責任者ではないためシラバスにての周知となります。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今後の の実施計画
認 可 時 (令和4年)	1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること	【認可】 遵守事項	設置計画時のカリキュラム・ポリシーに沿った教育・研究活動を実施しています。今後の大学院教育のなかで教育研究活動を評価することで新たな課題を見出していきます。 (5) (6)	履行中	左記内容を的確に実施・評価するために、大学院運営委員会を設置しました。大学院教育委員会とともに教育研究活動の評価と改善充実に努めていきます。(5) (6)
認 可 時 (令和4年)	「審査意見への対応を記載した書類(6月)」の審査意見1への対応において、本専攻が掲げるディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを見直すとともに、新たに示された「3つのポリシーと育成する人材像との関連」の図によって、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性についての説明がなされた一方で、修正後のカリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーの対応関係について、例えば、CP5に掲げる「看護専門職の後進育成のため、学習者のニーズにあった教育方法や教育的関わりに必要な科目」と、AP3に掲げる「看護職として社会貢献を志向し、主体的に生涯学習に取り組む意欲」及びAP4に掲げる「保健医療に関する問題意識を有し、看護研究に取り組む意欲」が関連するとした理由が必ずしも判然としない。アドミッション・ポリシーが、入学希望者に対し、卒業認定の要件や入学後の学修に要する資質・能力等に照らして、入学に際して求められる基礎的な知識の水準や専攻分野への関心、意欲、態度等を示すものであることを踏まえ、カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーの対応関係について改めて整理した上で、入学希望者等が十分理解できるように分かりやすく示すとともに、適切な方法により周知すること	【認可】 遵守事項	CP5とAP3の関連についての的確に説明する理由が判然としないため、この関連を示す矢印を削除しました。CP5とAP4の関連については、教育能力を身に付けるためのCP4と相補的に関わり合いながらAP4と関連していると考えています。その旨を大学院説明会で、十分に説明を行いました。3つのポリシーの関連がAP→CP→DPとなっていたので、改めて3Pの策定及び運用に関するガイドライン(平成28年3月)に沿って、DP→CP→APの順で説明できるよう対応関連を整理し関連図を修正しました。(資料1:訂正版)(資料2:申請時資料)。修正した3P関連図は、本学大学院HPで閲覧できるよう公開しました(2022年9月22日付)。また2022年10月15日の大学院説明会において修正版3P関連図を配布し、改めて入学時に求められる基礎的知識の水準や関心、態度について説明を行いました。なお、それらの内容をオンデマンド配信しています。(5) (6)	履行中	3Pの対応関連を整理し修正したものを今後も大学院説明会において分かりやすく説明していきます。同時に本学大学院HPでの公開を継続していきます。(5) (6)
認 可 時 (令和4年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	【認可】 遵守事項	完成年度に定年規程を超える教員に関して、完成年度1年前より準備をすすめて研究指導のできるMマル合の資格を有する60歳未満の教授または准教授を公募により採用予定である。また、博士号を有するマル合教員のいる領域では、後継者育成に努めていきます。(5) (6)	履行済	本学の将来構想をふまえて各領域の教員配置と年齢構成が適切なものとなるよう、研究科教授会及び大学院運営委員会を中心に検討を行い、その実現に務めていきます。(5) (6)
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	該当なし				

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5) (6)」と記載してください。
 - 【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学研究科 看護学専攻（M）>

（１）設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本研究科を含め、全学の組織としてFD・SD委員会を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和5年4月～令和6年3月に各月1回の開催をし、計10回実施した。（8月・1月は休会）

構成員は、教員5名、職員3名である。

c 委員会の審議事項等

一宮研伸大学 FD・SD委員会規程第2条

一 教育支援プログラム、研究支援プログラムの立案・実施・評価に関すること

二 教育・研究・社会貢献活動の共有に関すること

三 学生による授業評価結果の分析と授業改善を図るための制度的取り組みに関すること

四 学外研修プログラムの立案・実施・評価に関すること

五 業務向上に関するワークショップの開催に関すること

六 公開講座の立案・実施・評価に関すること

七 その他委員会が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ハラスメント防止に関する研修会
- ・合理的配慮に関する研修会
- ・教育及び研究の指導能力向上を目的とした研修会
- ・公開講座

b 実施方法

外部講師を招き学内にて対面で実施し、講師に許可を得た研修については、欠席者に後日録画を配信する。

講師または学内の教員による研修会を実施予定。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和5年4月19日（水）ハラスメント防止研修会 特任教授を含む専任教職員46名が参加した。

令和5年6月21日（水）大学における合理的配慮に関する研修会 特任教授を含む専任教職員38名が参加した。

令和5年9月4日（月）教育及び研究の指導能力向上を目的とした死生学に関する研修会

特任教授を含む専任教職員35名が参加した。

令和5年10月15日（日）市民公開講座 一般市民、本学職職員を含む61名が参加した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

アンケートを実施し、今後の改善へ生かす。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学部生を対象に、前期と後期の各科目最終講義日に実施している。

少人数で開講の科目については、個人が特定される可能性に鑑み、実施していない。

b 教員や学生への公開状況、方法等

Webアンケートを実施し、集計結果に科目担当教員のコメントを添え、図書館窓口にて全体に公開している。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

2023年4月、看護学研究科を開設し、初年度、6名の大学院生を受け入れ大学院教育を始動している。2024年4月、2年目となり、6名の大学院生を迎えている。2学年とも定員枠を満たし、12名のうち11名は社会人学生として昼夜・土曜日開講制度を利用した学修である。2名は専門看護師の資格取得を目指している。まずは、本学大学院の設置の趣旨・目的にそった教育が順調に進み始めていると言える。大学院運営委員会を中心に、大学院の設置計画に即した活動を展開し、大学院の教育・研究の質的水準の向上を目指していく。

② 自己点検・評価報告書

ディプロマ・ポリシーを踏まえ単位を厳正に認定し、カリキュラム・ポリシーに沿って教育課程を運用している。長期履修制度など院生に対する学修支援を図り、大学院生共同研究室などの学習環境をより良く整備した。2年目を迎えた院生は修士論文作成に向け研究計画を進めている状況にある。ほぼ目標通りに遂行している。

a 公表（予定）時期

- ・令和6年8月1日 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に令和6年8月頃、公開予定

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

令和5年度に日本高等教育評価機構から大学機関別認証評価の結果、適合と認定された。次回、令和12年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [有]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [公表後2～3ヶ月以内]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。